広報 なは 市民の友

第657号 毎月1回発行
2005年(平成17年)
10月

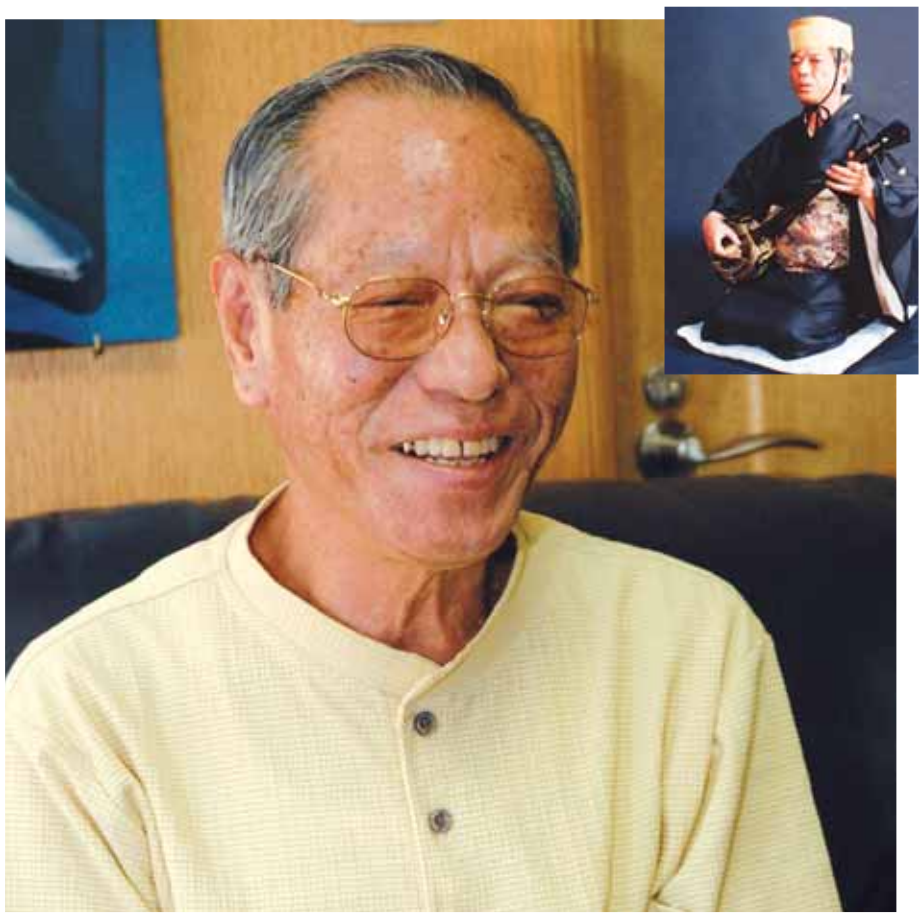
発行●那覇市 編集●秘書広報課
〒900-8585 那覇市泉崎1丁目1番1号
☎867-0111 ●印刷 光文堂印刷㈱

市の人口と世帯
※( )内はうち外国人
2005(平成17)年8月末現在

| | |
|---|---|
| 総人口 | 314,741(1,851) |
| 男 | 152,225( 935) |
| 女 | 162,516( 916) |
| 世帯数 | 127,196(1,057) |

住民基本台帳人口の内訳(外国人を除く)

| | |
|---|---|
| 本庁 | 91,946 |
| 真和志 | 105,874 |
| 首里 | 58,466 |
| 小禄 | 56,604 |



# 人間国宝に城間徳太郎さん

## 「組踊音楽歌三線」の保持者として重要無形文化財に認定

**演劇や音楽、工芸など伝統技術の継承のために国が指定した重要無形文化財「組踊音楽歌三線」の保持者として城間徳太郎さん（72歳・那覇市与儀）が、認定されました。**

「組踊音楽歌三線」は、沖縄の伝統芸能である組踊のなかで、各場面の状況や登場人物の心情などを、演技者のせりふの最後にかかるように歌いだしたり、動作に応じて微妙な緩急をつけるなど、組踊の筋の展開や演技、せりふとのかかわりなどに配慮して、三線の演奏に乗せ繊細に歌い上げて表現します。

城間さんは、17歳から本格的に沖縄古典音楽に取り組んでから、50年以上にわたり研鑽をつまれ、数多くの芸術賞を受賞するなど、組踊の歌三線の第一人者として知られています。また、自らの研究所の設立や沖縄県立芸術大学に琉球芸能専攻コースが開設されて以来、同大学の教授や客員教授をつとめ後進の育成にも尽力するなど、琉球古典音楽一筋に歩んできました。城間さんは「本当に三線を弾くのが好きでたまらなくて、三線一筋にやってきました。それが認められたんじゃないかという気がします。若い頃は、あまりに夢中になりすぎて『三線太郎（サンシンタラー）』と言われ、ヒンジャー（不良の意）あつかいされたこともありましたけどね（笑い）。三線ばかり弾いていた私が人間国宝なんて、あの頃からすると考えられないし、周りの人たちも信じられないでしょうね」と笑顔で話していました。

また、認定を受けたことで「喜びというより、責任を痛感しています。これからも一生懸命、稽古に励み、技を磨いていきたいです」と表情を引き締めた城間さんでしたが、お孫さんの話になると笑顔で「最近、三線を始めたんですけど、いつか同じ舞台で演奏できたら嬉しいですね」と話し、優しいおじいちゃんの表情を見せていました。

現在活躍している人間国宝は117人（8月末現在）、県内からの認定は城間徳太郎さんで9人目。芸能分野では、2000年認定「琉球古典音楽」の島袋正雄さんと照喜名朝一さん、2003年認定「組踊音楽太鼓」の島袋光史さんに次いで4人目の認定となります。

主な紙面

12月からごみの分別・収集方法が変わります 2
那覇市公共施設予約システムが始まりました 3
ふしぎ発見… 4・5
こころの病気ってなんだろう? 6・7
情報PACK

協働のまちづくり
## 那覇を紡(つむ)ぐ ⑥

# まちぐわ～の中の憩いの広場

今年の5月に、中心商店街の活性化と環境に配慮した消費行動の普及拡大を図ることを目的に、牧志第二公設市場跡地にオープンした「にぎわい広場」を、みなさんはご存知ですか？

この広場は、周辺住民や商店街のみなさんなど、まちに暮らす人たちが中心になって、市と共につくりあげた広場です。

整備計画の段階から、広場への強い想いを持ったみなさんと市の担当職員が集まり、意見交換会や審議委員会をかさねて、広場の運営方法や周辺商店街への影響などについて意見交換や話し合いが持たれました。

こういった取り組みをきっかけに生まれたつながりも広がりを見せているようで、去る7月3日には「にぎわい広場周辺市民庭園造り倶楽部」を結成、久茂地小学校と花とみどり課から苗木の提供を受け、周辺住民や同校の児童生徒、校長、教頭先生、父母会と市職員の計43人が参加して、8月16日に花壇を完成させました。

呼び掛け人の金城俊夫さんは、「広場周辺が金網とコンクリートジャングルに囲まれている状態では、訪れるみなさんが気軽に立ち寄りコミュニケーションを交わす場としての活用はまだまだ乏しいと考え、花壇を造りました。今後も身近なスージグヮーや広場の改善や緑化活動を通して、みんなでやさしいまちづくりを実現していきたいです」と微笑みました。

にぎわい広場には、各種イベントに活用できる広場のほか、どなたでも自由に利用できる休憩スペースやトイレなどが完備されています。また、休憩施設内には、新たに商品を開発して販売を行おうとしている方のためのチャレンジショップ、環境や自然に配慮した商品を扱うエコアンテナショップも併設されています。

新しいなにかが見つかる「にぎわい広場」。みなさんも一度足を運んでみてはいかがでしょうか。

＊チャレンジショップ…意欲のある出店希望者などのための集合店舗のこと。

＊エコアンテナショップ…エコ商品の流通促進と環境にやさしい消費行動についての情報発信を行なっています。

「協働」とは、市民、市民団体、事業者、市が機能の違いや相互の特性を理解し互いに補完し合い、よきパートナーとして、協力し合う活動体系をいいます。個人あるいは一つの組織だけではできないような地域の様々な悩みや課題を解決するために行います。

にぎわい広場は各種イベントにも活用できます。(7月に行われたポール・コールマン氏の講演会の様子)

本紙は「カラーバリアフリー(色覚障壁の除去)」につとめています。お気づきの点がありましたらお寄せください。☎862-9942 秘書広報課

R100 再生紙を使用しています。